

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	公益財団法人 大槻能楽堂
公演団体名	公益財団法人 大槻能楽堂

内容
<p>能楽師数名が訪問し、子供達と交流します。</p> <p>① オープニング演奏 謡の体験で使用する曲を演奏し、子供たちの興味を引き付けます。</p> <p>② 能についてのお話 能の歴史・能の登場人物・囃子の解説にパネルを使用して、クイズ形式でレクチャーします。</p> <p>③ 囃子（はやし）のお話・体験 （小学生向け）囃子の解説では、楽器の成り立ちだけでなく、エア（口や身振り）で楽器体験。 （中学生向け）さらに、指揮者がいない能の舞台上、楽器演奏者がどのようにして、音を併せているのかを、生徒をグループにわけレクチャーし、最後に合奏（合唱）することで、囃子方のコミュニケーションの取り方を学んでもらいます。（ドラムセットをシンバル・バスドラム・スネアドラム等それぞれにわけて練習し、最後に音を合わせるイメージです）</p> <p>④ 謡（うたい）体験 能楽の基本となる謡を体験。 開催校の校歌にフシをつけ謡にアレンジしたものに挑戦。謡を身近なところから学んでもらいます。</p> <p>⑤ 能の小道具作成（オリジナル能面制作） 「能楽」の代表的な小道具である能面を、専用紙を用いて作成して頂きます。 作成する能面・小道具は本公演で登場する（主に主役）役に併せて作成することで、本公演への理解を深めます。 作成過程では、能楽師も生徒の輪に参加することにより、子供たちと交流も図れます。作成した小道具は、後の型の体験に使用いたします。</p> <p>⑥ 型の体験 完成した能面をつけ、能の動き「型」などを体験。</p>

その他にWS時間によって、⑦ 質疑応答 を組み込むことが可能です。

※⑤能の小道具作成をご希望で無い学校の場合などは⑥型の体験や⑦質疑応答、③の「エア楽器」等の体験の内容を増すなど、謡・仕舞・囃子などのお稽古を中心とした内容に変更することも可能です。

コロナ対策としては、参加者全員のマスク着用、能楽師は口元が見えるようにフェイスシールド、マウスシールド、近大マスク等を着用。生徒側との距離を取り、感染症対策とする。

ワークショップ前日・当日には、出演者の検温、入校時に手の消毒を徹底し、私語を控え会話を最低限のものとする。場合によっては、声を出す「謡」体験を省略。囃子の体験も「掛け声」無しに行う。ワークショップ全体の時間短縮をする場合がある。

タイムスケジュール（標準）

40 分前（準備）

100 分（体験）

- | | |
|----------------------|------|
| ① オープニング演奏 | 5 分 |
| ② 能についてのお話 | 20 分 |
| ③ 囃子のお話・体験 | 15 分 |
| ④ 休憩 | 10 分 |
| ⑤ 謡体験 | 15 分 |
| ⑥ 能の小道具作成（オリジナル能面制作） | 30 分 |
| ⑦ 型の体験 | 5 分 |

15 分（片付け）

（コロナ対策で、プログラムの一部を省略する場合がある※上記内容欄参照）

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください

主指導者 1 名

補助講師 3 名

スタッフ 1 名 計 5 名

学校における事前指導

事前学習なしでも楽しめるようにプログラムを組んでいますが、子供達が当日の能楽ワークをスムーズに楽しく学べるように学校の先生に資料などを送付し、ワークショップの内容、本公演の内容を充分理解してもらう。

（資料をメールで送信、学校でコピーしてもらう事でウイルスを持ち込まないようにする）

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	公益財団法人 大槻能楽堂
公演団体名	公益財団法人 大槻能楽堂

演目
<p>発見！能は面白い！能「安達原」で能楽体験</p> <p>1部</p> <ul style="list-style-type: none">◆はじめての能楽<ul style="list-style-type: none">▶オープニング演奏▶能楽について（DVDで能楽入門／鑑賞・スクリーン使用）◆謡ってなあに？（謡に挑戦／能楽師と共演発表会）◆エア楽器でお囃子（はやし）体験！（囃子（はやし）解説/エア楽器体験）◆祈りの型に挑戦！！ワキ方の数珠体験 <p>2部</p> <ul style="list-style-type: none">◆クイズで生徒と共演！能でつかうあれこれ（能面・小道具・能の登場人物紹介）◆能楽を観てみよう<ul style="list-style-type: none">▶ストーリー説明（スクリーン使用）▶半能「安達原（あだちがはら）」鑑賞 ～陸奥の安達ヶ原の鬼女と出会った、山伏たちは逃げ切れるのか！～◆公演のまとめ、事後学習の説明（紙製能面等配布） <p>コロナ対策としては、参加者全員のマスク着用、能楽師は口元が見えるようにフェイスシールド、マウスシールド、近大マスク等を着用。生徒側との距離を取り、感染症対策とする。公演前日・当日には、出演者の検温、入校時に手の消毒を徹底し、私語を控え会話を最低限のものとする。場合によっては、声を出さず「謡」体験を省略。囃子の体験も「掛け声」無しにて行う。</p> <p>公演全体を短縮し、入場者数を減らしての2回公演にする場合も考えられる。</p>

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
出演者 20名
スタッフ 7名
合計 27名

タイムスケジュール（標準）

午後 1 時 30 分開演 公演の場合

9 12 13:30 15:10 17:30

到着・設営	昼食 休憩	出演者 楽屋入	開場	公 演 (休憩 10 分の場合)	終演撤去 搬 出	退館
-------	----------	------------	----	---------------------	-------------	----

午前 10:30 開演 公演の場合

前日夕方 当日 9:00 10:30 12:10 14:30

到着・設営		出演者 楽屋入	開場	公 演 (休憩 10 分の場合)	終演撤去 搬 出	退館
-------	--	------------	----	---------------------	-------------	----

**コロナ対策として、プログラム全体の短縮を行い、入場者数を減らして 2 回公演にする
など考えられる。設営スタッフも作業中・休憩中問わずマスクの着用。消毒・検温など徹底
する。**

実施校への協力依頼人員

1 名程度

トラック搬入時の門の開閉、駐車場の指示、
設営時に電源の確認や長机・椅子の所在確認等をお願い致します。

演目解説

1部：能楽の紹介と体験(40～45分)

◆はじめての能楽

▶オープニング演奏

囃子方名による演奏。

まず初めに、生演奏によるお囃子(はやし)の迫力を肌で感じてもらうために、囃子方(はやし)かた(笛・小鼓・大鼓・太鼓)による演奏を行います。



- ##### ▶能楽について (DVD能楽入門鑑賞・スクリーン使用)
- 能楽についてまとめたDVDをスクリーンで鑑賞(能の成り立ち、能舞台、役割、面、装束等)

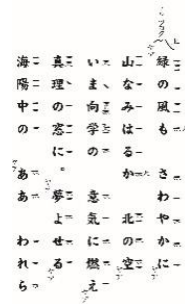


◆謡(うたい)ってなあに？

▶謡に挑戦／能楽師と共演発表会

全校生徒で謡(うたい)に挑戦！

普段子供達が歌う機会が多い開催校の校歌を能独特の抑揚をつけ、アレンジして謡います。囃子方の演奏も入り(プロの演奏で)全校生徒で発表会！



◆エア楽器でお囃子(はやし)体験！(囃子(はやし)解説／エア楽器体験)

能で使用する4つの楽器(笛・小鼓・大鼓・太鼓)の音の出し方から、なぜ、舞台上で音や掛け声が合うのか？その不思議をエア楽器体験や、解説で紐ときます。

◆エア数珠で祈り伏せよう！！ワキ方の型を体験

「安達原」にでてくる山伏は鬼女を刀で切り伏せるのではなく、修行の力で鬼女を退散させます。

山伏は持っている数珠をもんで、その音と祈る声で鬼女から身を守ることが出来たのです。その祈りをエア数珠で体験を皆でします。

{休憩10分}

2部：能楽クイズ能楽鑑賞(40～45分)

◆クイズで生徒と共演！能で使うあれこれ！(能面・小道具・能の登場人物紹介)

能楽師が小道具の紹介と解説をクイズ形式で生徒と応答、楽しく能に描かれる多種多様な人物や小道具について興味を促します。

◆能楽を観てみよう

▶ストーリー説明(スクリーン使用)

舞台写真を用いて、能楽師がストーリーを説明します。

※子供たちに問いかけコミュニケーションをとり、想像力を引出しながらの説明です。

子供たちが楽しく聞くことのできる内容になっております。

《半能「安達原（あだちがはら）」あらすじ》

全国を回り修行する山伏・祐慶（ゆうけい）一行は、陸奥で一夜の宿を借りることになります。貧しくとも親切な女は、寒くなってきたので薪を拾いに行こうとしますが、決して見てはいけない一部屋を注意して外出します。その一部屋の中には人の骨が沢山あり、急いで山伏たちはそこから出ます。



【以下鑑賞部分】

見てはいけない約束を破った山伏たちに、女は鬼女となって襲い掛かります。鬼女の激しい怒りと、山伏の祈りの対決。人を食べて生きながらえてきた鬼女の姿と、約束を破ってしまった人間、様々な心の中が見て取れます。能面のイメージというと角の生えた般若の面ですが、この曲で使われます。

▶半能「安達原」（あだちがはら）」鑑賞。

～鬼女と山伏の攻防、山伏たちは祈り伏せることが出来るのか！～

・後場のクライマックス部分の上演。

動きの激しい後半、祈る山伏、怒りに襲い掛かる鬼女。

数珠を武器に祈りで抵抗します。

・特設能舞台での上演

能舞台は「張出舞台」と言い舞台が客席に突き出しており、

一般的にホール等で行われる「額縁式舞台」よりも、より演者

や囃子の迫力や緊迫感が客席に訴えかける様式です。

大槻能楽堂ではこの様式を重要とし、本物の能舞台を模した特設の舞台で、

能の魅力をお届けします。

◆公演のまとめ、事後学習の説明（紙製能面等配布）

生徒達に再度“能”にふれる時間をもってもらうため、思い出として「家族に今日見て聞いた事を伝えて下さい」と配ります。（作り方使用方法も説明。）本来なら全校生徒に本物の能面をつける能面体験が実施できればよいのですが、時間等にも制限がある為、本物により近く製作した紙製能面を配り体験可能にしました。実際に再度体験し、思い出し、伝えてもらう事により、この舞台鑑賞が心に残ると考えています。紙製能面があることで、生徒達同士でも自発的にこの舞台鑑賞を思い出すきっかけ、ご家族に能楽鑑賞について話をするきっかけになり、コミュニケーションの育成にも効果的と思っております。能楽鑑賞について思い出していただくように能楽美術カレンダー、又は能楽美術ポスターを配布いたします。

コロナ対策では、参加者全員のマスク着用、演者はフェイスシールドの着用など徹底し、状況によってはプログラムのうち、声を出して参加する部分を省略、参加入場者の人数制限をし、2回公演なども視野に入れておく。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

謡(うたい)体験

体 験:全校生徒で校歌(もしくは童謡)の謡に挑戦。

共 演:全校生徒で練習した謡を、能楽の囃子方と共演・合奏することで公演に参加出来る。

囃子(はやし)体験

体 験:能楽に使用する楽器(主に鼓)をエア楽器(楽器意を持たずに)でリズムなどを体験します。

共 演:エア楽器での練習を、実際に能楽師と合奏・共演をする。

ワキ方祈り体験

体 験:全校生徒で「安達原」にでてくる山伏の数珠の仕草を体験。

共 演:2部の半能「安達原」で実際に祈りを行う際に、全校生徒が能楽の囃子や謡にあわせて共演。

能楽クイズ

体 験:能楽師が能の小道具のみを付けて登場人物を考えるクイズ形式想像力を膨らませる。

共 演:能の登場人物が、どのような場面で、どのような心情で演技をしているのかを能楽師目線と児童生徒の皆さんと考察することで共演出来る。

コロナ対策として、声を出して参加する内容のプログラムを省略する場合があります。

児童生徒とのふれあい

謡体験、囃子体験、能面体験、ワキ方祈り体験

⇒ 体験全てにおいて能楽師が指導に当たり、生徒さんたちと触れあいながら体験していきます。

参加者全員のマスク着用、演者はフェイスシールド着用、消毒の徹底など、コロナ対策を徹底した上でのふれあいをする。